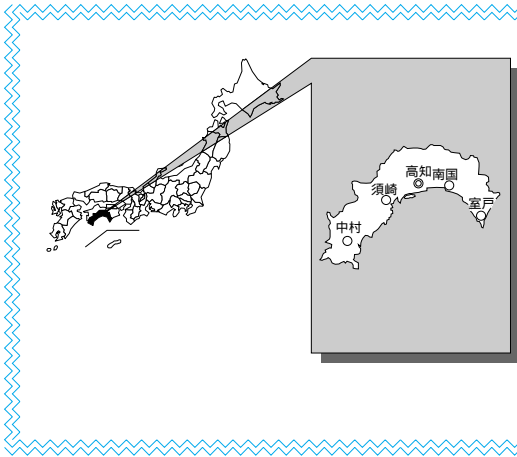


土木紀行

旭浄水場

高知県高知市



1. はじめに

旭浄水場は、幕末の志士坂本龍馬が少年時代に泳ぎの練習に励んでいたといわれる市内中心部を流れる鏡川を水源とする浄水場で、高知市の中心に位置する高知城の西約2.5kmにある御殿山（通称水道山）の山麓にあります。

創設以来86年間、高知市上水道の基幹施設として休むことなく給水を続け、隣接した水道山公園とともに高知市民に親しまれている旭浄水場は、昭和60年に全国の「近代水道百選」にも選ばれ、近代水道の歴史を今に伝えています。

2. 大正14年に完成

高知市に上水道が誕生したのは大正14年4月のことで、日本で初めて近代水道が建設された横浜市に遅れること38年、全国で56番目でした。これは、高知市には、鏡川を含め七つの河川が深く入り込んだ浦戸湾に注ぎ、豊富な地下水があったためです。

大正11年5月に認可を受けた施設規模は、計画給水人口4万人、日量最大4,440m³というもので、大正12年7月に起工、完成は当初の予定より6カ月早い大正14年3月のことでした。

3. 近代文明のシンボル

旭浄水場の設計は、東京工務所の和田忠治氏によるものですが、建設着手後に関東大震災が発生したため、地震で損害を受けた他の上水道施設の実情を参考に、耐震的な変更が加えられたそうで

す。

赤屋根の六角塔を持つ管理棟、赤いレンガの壁に白枠の丸窓を配した送水所、異国情緒あふれるこの外観は、水道が欧米からもたらされた近代文明のシンボルとしてとらえられていたことを物語っています。

4. 市民待望の上水道施設

裏山の緑をバックに、花崗岩の自然敷石を配した三つの緩速ろ過池に写るルネッサンス様式を基調とした洋風建築は、当時さぞや目新しく写ったことでしょう。

御殿山山頂に設けられた配水池の側で挙行された竣工式当日の4月24日は、水源地と浄水場を市民に開放。煙火を華々しく打ち上げ、花台も繰り出し、各流派の生け花展が彩を添えました。市内中央の高知公園では記念の学生相撲大会や自転車競走、市内各所で餅投げや消防士の放水演習が行われるなど、まさに高知の街挙げてのお祭り騒ぎだったと伝えられています。

5. 戦災や南海大地震を耐えて

戦時中には空襲から浄水場を守るため、コールトールや塗料をあちこちに塗り、池には木をさして生け花のようにした竹のいかだを浮かべ、空から見て分からないようにカムフラージュをした旭浄水場は、高知市街が一面の焼け野原になった昭和20年7月4日の大空襲でも直撃を免れました。

しかし、翌年の12月21日の南海大地震では水源地の取水管や配水池が大きな被害を受け、水道施

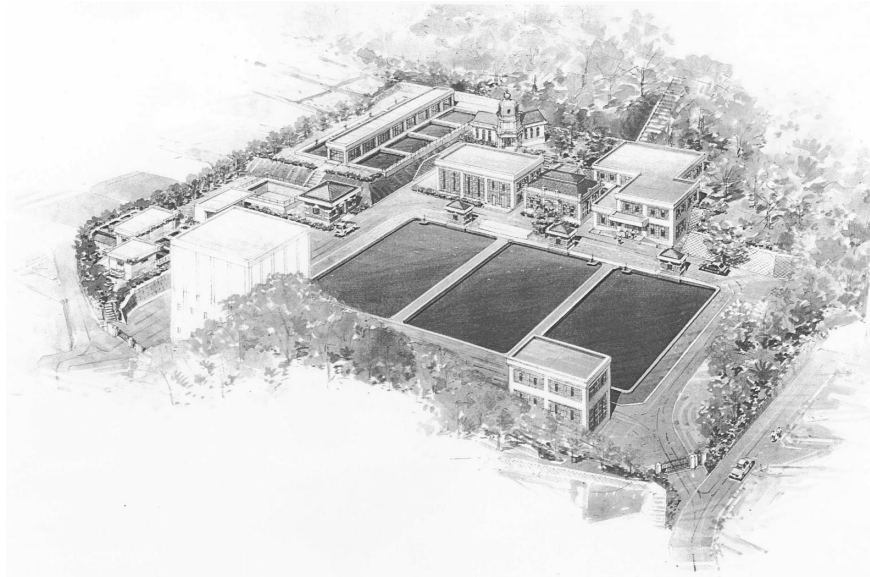


図 旭浄水場（平成29年更新後の完成予想図）



写真 1 旭浄水場（更新工事前）①



写真 2 旭浄水場（更新工事前）②

設の資材も配給制だったこの時代，復旧には大変な苦勞を伴ったそうです。

6. 市勢とともに拡張

高知市の上水道は創設以来4回の拡張が行われていますが，その3回までが旭浄水場の能力増強によるものでした。

第1期拡張事業（昭和9年竣工）で施設能力が日量最大13,360m³に，第2期拡張事業（昭和31年12月竣工）で28,800m³に，第3期拡張事業（昭和42年3月竣工）で60,000m³になりました。

7. 現在は更新工事中

現在，旭浄水場は平成17年に始まった全面更新事業を行っています。工事スペースを確保するた

めに緩速ろ過池を休止し，急速ろ過池のみで運転を続けながら順次老朽化した施設を更新しています。このため，創設当時の情緒ある建物は工事現場に隠れてしまっていますが，更新工事が竣工する平成29年春には，創設当時の面影を残しながらも最新の浄水場に生まれ変わった，旭浄水場にまた出会うことができます。

【交通】

JRで...土讃線 旭駅から徒歩約10分
（施設内への立入りはできません）

【参考文献等】

高知市水道史「こうち水物語」高知市水道局発行
「土佐の名建築」高知新聞社発行
「近代水道百選」日本水道新聞社発行

【お問い合わせ】

高知市水道局 TEL088 821 3235